

平成30年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園さつなえのもり

1. 本園の教育・保育目標

「豊かな保育を通して、生きる力を育てる」 (やさしい子、かしこい子、つよい子)

- ・豊かな人間関係がつくれ、思いやりのある子
- ・何事にも関心を示し、意欲的で想像力と創造性の豊かな子
- ・健康な心身を持ち強い意志と自立心と自律性のある子

2. 今年度の重点目標

「一人一人が集団の中で育ち合う、豊かな保育環境作りを目指す」

子ども一人一人の個性を尊重し、子どもが自分で考え、判断し、行動するという自発的で主体的な活動を納得いくまで取り組めるようにすると共に、乳幼児期にこそ育つ豊かな感性を最大限伸ばしていけるような保育環境作りを目指していく。

3. 評価結果及び改善策

(1) 「全体的な計画」に基づく保育の計画性について

[幼児部]

- ・見通しを持って製作など保育の準備を進めることができ、気持ちにも余裕を持って保育を行うことが出来た。
- ・子どもたちが様々な遊びに興味を持ち、挑戦するきっかけになるようクラス全体で色々なことに取り組んだ。

[乳児部]

- ・日々の保育が大きく変わることなく子どもたちも生活の流れを理解し見通しをもって過ごすことができた。
- ・パート保育教諭も含めクラス担任で話し合いをすることで共通認識を持ち保育の流れを作っていくきっかけになった。

(2) 保育のあり方、園児への対応について

[幼児部]

- ・子どもたちが様々な遊びに興味を持ち挑戦するきっかけづくりをしたことで、繰り返し取り組みができた喜びを感じたり自信に繋がる姿が見られた。保育教諭も子どもたちと共に出来た喜びを共感するよう心がけてかかった。

[乳児部]

- ・子どもの成長を踏まえ、個々に合わせたかかわりを心がけることができた。
- ・担任間で個々への対応を共有しクラス全体として丁寧にかかわり向き合うことができた。

(3) 研修と研究について

[幼児部]

- ・研修で学んだことや話し合ったことを翌日の保育で活かせるよう心がけていた。
- ・クラスの環境設定は子どもたちの様子を見て自分なりに変化をつけながら行うことが出来た。

[乳児部]

- ・保育の質の向上は実務経験だけではなく自分自身の知識を深めていくことも必要だと改めて感じた。

(4) 保護者への対応について

[幼児部]

- ・様々な面でクラスの個人差が広がったため子どもたちが困っていることを具体的に保護者に伝えられるように心がけた。

[乳児部]

- ・送迎時に子どもの成長や悩みなどを共有することができた。その反面、様々な保護者がいらっしやるので対応や支援の難しさを感じた。
- ・けがやトラブルなど保護者にどのように伝えていくのか話し合い職員で共通理解を持ててよかった。

(5) 自然や社会とのかかわりについて

[幼児部]

- ・散歩や園外保育を学年で多く取り入れることで地域との触れ合いや小学校への訪問によって他学年の子と触れ合い気持ちを高めることができたため今後も続けていきたい。

[乳児部]

- ・幼児部でのコーナー活動参加を通して異年齢児とのかかわりを多く持つことができた。又、かかわりの中から様々なルールを学ぶことが出来た。

4. 関連事業

1. 一時預かり事業・延長保育の実施

2. 地域開放、子育て支援事業の実施

[幼児部]

- ・ あそぼうデー
- ・ 未就園児親子教室つぼみ

[乳児部]

- ・ 一時保育の実施

3. 幼小及び地域との連携交流